

服装の選定を題材とした意思決定プロセスの学習

福井典代* 藤原康晴*

* 鳴門教育大学 学校教育学部 鳴門市鳴門町高島 772-8502

【要旨】高等学校生徒を対象に意思決定能力の育成をめざし、いとこの結婚式のパーティに着ていく服装の選定をとおして意思決定のプロセスを学習する教材を作成して実践した。この教材は、(1)そのパーティに着ている服装を数種想起する、(2)その各服装のメリット、デメリットを記入する、(3)それらの服装の中から生徒自身の価値観、状況に応じて着ていく服装を選定する、(4)それを選定した方法を記入する、から構成されている。

実践の結果、生徒一人当たり想起された服装の数は平均5種であり、選定された服装は、洋服が63%、和服が17%、学校の制服が15%であった。各生徒が服装の選定に際して用いた方法が、3種の決定方略—加算型、加算差型、辞書編纂型—のいずれになるかを計数した。意思決定において、もっとも好ましい決定方略と考えられている加算型を用いた生徒が48%あり、服装の選定に比較的好く用いられている辞書編纂型を用いた生徒は34%であった。このワークシートの実践によって生徒は意思決定プロセスを学ぶ機会が与えられ、好ましい決定方略を用いて意思決定する傾向が認められた。

【キーワード】 意思決定能力、服装の選定、決定方略

1 緒言

現行の学習指導要領では、消費者教育の内容の充実が図られ、「必要な物資・サービスの購入と消費が適切にできる」、「消費者として自主的、合理的に行動できる」、「目的に応じて適切に判断、整理、選択して活用できる」などの能力や態度の育成が取りあげられている¹⁾。また、高等学校の現代社会、家庭一般を担当している教員を対象とした意識調査によると、消費者教育で学習するいくつかの事項のなかで、「消費生活上の選択や判断のできる能力の育成」がもっとも重視されている²⁾。

これらの能力は、一般に、意思決定能力と呼ばれており、消費者教育において育成すべき能力として位置づけられている。この能力の育成は、消費者教育における学習指導の目標とされ、また、家庭科担当の多くの指導者が重要と認知している項目であるが、導入されてから日

も浅いこともあって、指導例は十分とはいえない状況にある^{3) 4)}。

意思決定は学習することのできる技能であり、学習と訓練によって強化することのできる能力と考えられている。この意思決定の学習は、意思決定プロセスのステップにしたがって進められることが多い⁵⁾。意思決定場面では、いくつかの選択肢を考え、各選択肢のメリット、デメリットを比較考量し、もっとも満足できる選択肢を選定し、その結果を分析、評価するのがその各ステップである。これが意思決定の定型であり、意思決定の学習はこの定型を理解し、このステップにしたがった訓練を行うことである。

意思決定場面に直面したとき、生活経験の豊富な成人は通常、いくつかの選択肢を想起し、それぞれの選択肢のメリット、デメリットを比較検討して意思決定しており、生活体験をとおして上記の意思決定の定型を身につけている。

しかし、生活経験が豊かでない未成年は、その意思決定の定型を取得していないことが多いので、この定型を学習し、意思決定の訓練をすることが必要となる。この観点から意思決定プロセスを学習するワークシートを作成した先行研究⁶⁾があり、そこでは、「英会話教室へ行きたい」を題材として実践されている。

本研究では、高校生を対象に、いとこの結婚式・披露宴に招待されたときの服装の選定を題材とした意思決定プロセス学習のワークシートを作成した。消費者教育にとって必要なのは、結論ではなく判断のプロセスである。ここでは服装の選定のプロセスを体験することをとおして意思決定の定型を理解させ、その能力の育成をめざした教材を実践した。さらに、この定型では、いくつかの選択肢を比較考量してある特定の選択肢を選定する方式で進められるが、実際の選定に当たってその方式がどの程度採用されたかについても検討した。

II 教材作成の手順

1. 意思決定のプロセス

堅実で満足できる意思決定は次に示す意思決定プロセスのステップにしたがった実践によってもたらされる場合が多いという⁷⁾。意思決定能力の育成に関する学習は、この定型にしたがって進められていることが多い。

- ステップ1 解決すべき問題を明確にする
- ステップ2 関連情報を収集する
- ステップ3 選択肢を考える
- ステップ4 各選択肢のメリット、デメリットを検討する
- ステップ5 いずれかの選択肢を選定する
- ステップ6 その選定に対して分析、評価する

本教材では、ステップ1の解決すべき問題を授業担当者が明確に提示し、ステップ2からステップ5のプロセスを生徒が実践するワークシートを作成した。

2. いとこの結婚式・披露宴に出席するときの服装を選定するワークシート

上述の意思決定プロセスのステップにしたがって結婚式・披露宴に出席するときの服装を選定するワークシートを作成した(表1)。ステップ1の「解決すべき問題を明確にする」では、このワークシートの表題を「結婚式・披露宴に出席するときの服装を考える」とし、さらに、具体的に「この春ホテルで、いとこが結婚式を行うことになり、その式と披露宴にあなたは招待されました。その場面にあなたはどのような服装で出席したいと思いますか?考えられる服装プラン(服装とその入手方法)を下表に記し、それぞれの服装プランのメリット・デメリットを書いてください。次にそれらの服装プランの費用やメリット・デメリットを比較検討し、着用したい服装を決めてください。」と実践する内容を記すことによって明示した。次に、各生徒はその服装に関する情報を収集し、想起する服装プランのすべてをプラン1からプラン7までの欄に記入した。続いて、それらの各プランに対して、「予想される費用」、「考えられるメリット・デメリット」を該当欄に記入した。

表1 いとこの結婚式・披露宴に出席するときの服装の選定を題材とした意思決定プロセス学習のワークシートの概要

	プラン1	プラン2	プラン3	プラン4	プラン5	プラン6	プラン7
服装とその入手方法							
予想される費用							
考えられるメリット(よい点)							
考えられるデメリット(悪い点)							
決定	この結果から、結婚式・披露宴に着ていく服装はプラン <input type="text"/> に決定しました。						
その決定に際して重視したポイント							

各服装プランに対する費用、メリット・デメリットを記入した後、いずれの服装プランを選定するかの決定を行った。生徒は各自の信念や

価値観、家庭の経済状況などにしたがってさまざまな服装プランを選定している。実践中、この段階では、どのようにして特定の選択肢を選定するかについて特に教示は行わなかったが、その決定後、「決定に際して重視したポイントは」の欄を設け、自由に記述してもらい、その決定にいたる方法を知る手がかりとした。また、最後にこのワークシートを実践した「感想」を書いてもらう欄も設けた。

本教材は、高校1年生33名（男子6名、女子27名）、2年生102名（男子18名、女子82名）を対象として実践された（1997年1月）。

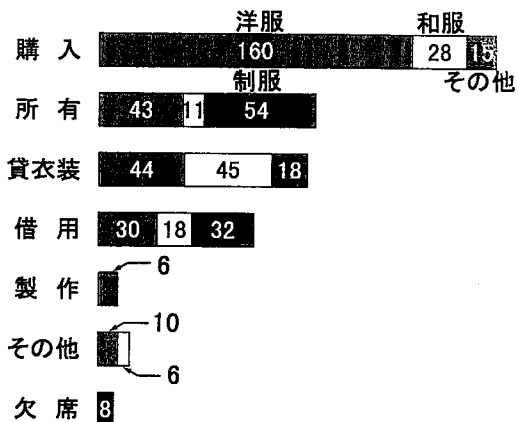
本教材の題材とした「結婚式・披露宴に出席するときの服装」に対して、想起された選択肢（服装プラン）は、女子生徒の平均4.9に対して、男子生徒の平均は3.4であり、男子生徒にとっては身近な服装とはいえなかったようである。男子生徒にとっては、「結婚式・披露宴への出席」は、現状の生活とは少し離れた、直接関わることの少ない事態と受け取られたものと思われる。意思決定の学習教材の題材として服装を取りあげる場合、男子、女子生徒ともに彼ら自身の日常生活に密着した服装を題材とすべきであろう。したがって、本報告では、男子生徒24名の結果は分析の対象とはせず、女子生徒109名の結果を分析してまとめた。

III 実践の結果と考察

1. 想起された選択肢（服装プラン）とその入手方法

各生徒は、いとこの結婚式・披露宴に出席するとき着用できると考える衣服とその入手方法をワークシートのプラン1以下に記載した。スーツやドレス、振り袖、制服、熊の着ぐるみなど、さまざまな衣服が想起されていた。女子生徒109名によって想起された選択肢（服装プラン）の総数は535であり、1名当たり、約5個の選択肢をあげている。各服装プランには、その入手方法もあわせて記載されているので、各服装プランを入手方法別および服種別に集計した。その結果を図1に示す。

図1 想起された選択肢（服装プラン）とその入手方法（図中の数値は頻度を示す）



洋服を新たに購入して出席するというプランが最も多く、160プランあり、全体の約30%を占めている。このプランの数が対象者数より多いのは、1人の生徒がスーツ、紺のワンピース、えんじのワンピースなどいくつかの洋服を想起しているためである。

和服では、貸衣装の利用割合が大きく、次に購入、借用、所有しているものの利用があげられている。制服利用も54例あり、比較的多くの生徒が指摘している。

なお、ワークシートの選択肢記入欄に「服」とだけ書かれている場合がかなり多くあった。この場合の服はおそらく洋服と考えられたが、ここでは洋服とは別に「その他」に分類した。購入、借用、貸衣装において、「その他」の占める割合が相当大きくなっているのはこのためである。「その他」に分類した「服」の頻度を「洋服」に加算すれば、「洋服」の占める割合がさらに大きくなる。

以上の入手方法のほかに、頻度は小さいがドレスや和服を「製作」して着用するプランもみられた。また、この結婚式・披露宴には出席しないというプランも8名が指摘している。入手方法の「その他」は、入手方法が記載されていなかった場合である。

2. 想起された選択肢（服装プラン）に対する
メリット、デメリット

各選択肢には多種多様なメリット、デメリットが記載されている。KJ法を用いてそれらのメリット、デメリットを、審美性、実用性、効用性、経済性、社会性、その他の6カテゴリーに分類した。審美性に分類されるメリットには、「気に入ったものを選択できる」、「自分に似合うものを選択できる」などであり、実用性に分類されたのは、「取り扱いに関するもの」、「サイズに関するもの」である。効用性には、「コーディネートしやすい」、「他の機会にも利用できる」などであり、経済性には「費用、時間などに関するもの」、社会性には「場面へのふさわしさ」などである。

各服装プランに対するメリット、デメリットを上記の各カテゴリーに分類し、入手方法別に

「製作」において、自分に似合った服装をデザインすることができるのがメリットとされ、審美性の割合が大きくなっている。しかし、どれだけこの場面にふさわしい衣服を製作できるかといった不安もデメリットとしてあげられていた。

このワークシートの実践に当たり、生徒がどの程度の服装プランを想起でき、そのメリット、デメリットについてもどれぐらい記述できるかに関して、著者は懸念していた。しかし、費用以外の記入欄についてはさまざまな観点から想起された多くの内容が記述されており、この種のワークシートが意思決定プロセスの学習に用い得ることがわかった。このワークシートを用いれば、必然的に各選択肢のメリット、デメリットを調査し、記述することになる。このことが結果的に、意思決定プロセスを学習し、期



図2 入手方法別に集計した各服装プランのメリット、デメリットの内容の分類

その頻度を計数した。その結果を割合に換算して図2に示す。

入手方法でもっとも頻度の大きい「購入」では、メリット、デメリットともに審美性から社会性まで各カテゴリーの頻度はほぼ同じぐらいあり、多くの観点からメリット、デメリットが指摘されていることがわかる。「借用」では、当然のことながら、経済的な負担が少ないのがメリットとして多くあげられており、サイズ適合への不安がデメリットとして指摘されている。

洋服	和服	制服	その他
63	17	15	5

(a) 服種別

購入	所有	貸衣装	製作
48	25	15	6

(b) 入手方法別

図3 選定された選択肢の服種別、入手方法別集計結果(図中の数値は割合(%)を示す)

待される意思決定能力の育成につながっていくと考えられる。

3. 選定された選択肢

結婚式・披露宴に着ていくことができると考えて取りあげた選択肢（服装プラン）の数は生徒によって異なるが、平均すると生徒1名当たり5種である。これらの選択肢のなかから各生徒は1つの選択肢を選定した。選定された選択肢を服種別、入手方法別に集計し、その割合を算出した結果を図3に示す。

服種別に集計した結果では、パーティ・ドレス、スーツ、ブラウスとスカートなどの洋服が多く、次に和服（多くは振り袖）が選定されている。制服を選定した者の割合は15%であった。いずれの服種についても、選定された服種に対するメリット、デメリットは多種多様である。選定された服種が同じであってもその観点には各生徒の価値観などによって異なっている。制服を選定したある者は、「学生にとっての正装は制服であると思う」との観点から、また別の者は、「もっとも経済的である」との観点から選定している。

入手方法別に集計した結果では、「購入」の割合が48%で約半数を占め、「所有」、「貸衣装」、「借用」の順に選定されている。ごく少数であるが、「製作」する衣服を選定した者があった。

今回の実践は、各生徒が想起する服装をいくつかあげ、それらのメリット、デメリットを考えて最終的にある特定の服装を選定する手順で行った。したがって、他の生徒の指摘した服装プランやその入手方法、各プランのメリット、デメリットを十分知ることなく選定している。この教材を効果的に活用するためには、まず、各生徒が個別に実践し、その後、たとえば、グループ別に服装プランや入手方法、選定などについて討論を行うとよい。その結果をふまえてワークシートの訂正、加筆を行い、再度選定を行うように授業を計画するのが望ましい。この過程を経ることによって、最初に各自が想起していたものより多くの選択肢があることを認識することができ、また、気づかなかったメリッ

トなども知ることができる。これは、各選択肢のメリット、デメリットを熟慮した上で決定されることになり、意思決定の能力の育成教材として期待される実践方法である。

4. 選択肢の選定方式

数個の選択肢のなかから各生徒はある特定の選択肢を選定した。この選定に当たり、どのような方式が用いられたかをワークシートの「その決定に際して重視したポイントは・・・」中に各生徒が記した内容の分析から検討した。

いくつかの選択肢のなかからある選択肢を選定するとき、一般に「加算型」、「加算差型」、「連結型」、「辞書編纂型」のうちのいずれかの選定方式が用いられていることが知られている⁸⁾。9)。「加算型」は各選択肢に対してすべての属性（本ワークシートではメリット、デメリット、費用に該当する）が検討され、全体評価の最良の選択肢が選定される方式である。「加算差型」は任意の2つの選択肢に対して、属性ごとに評価値の比較が行われ、トーナメント式に優劣がつけられ最終的に残った選択肢が選定される方式である。「連結型」は各属性について必要条件が設定され、全属性にわたってこの条件を満たす選択肢が選定される方式である。「辞書編纂型」は重視される属性があり、その属性が高く評価される選択肢が選定される方式である。なお、服装の選択のような場合には、通常、各属性に対して必要条件を設定するほど厳密な選定は行わないので、「連結型」はここでは取りあげないことにした。

ワークシートの「決定に際して重視したポイントは・・・」に記されている内容が上記「加算型」、「加算差型」、「辞書編纂型」の3種の選定方式のいずれに該当するかを計数した。ここで、「加算型」に帰属したのは、選定に当たり、2つ以上のメリットあるいはデメリットが比較され、総合的な見地から行われている場合である。たとえば、「少しお金はかかるけど大事な人の結婚式に失礼のないような格好をしたいと考えるのは当然だし、その日が終わってもまた何かあったときの使える洋服としてとっておくと

便利だから(購入、洋服)」、「自分の好きな服が選べるし、ある程度流行ものがそろっている。結婚式に着るような服は日ごろ着ないし、買うよりは経済的にも楽である。汚れは自分で気をつければよいし、クリーニングでも何とかできるので(貸衣装、洋服)」などである。

「加算差型」に分類した例は、「学生なら無理にスーツや着物など着なくてもいいと思った。制服のほうが気を使わなくてもいいし、堂々としてられる。着付けなども必要ない(所有、制服)」のような場合である。「辞書編纂型」の例としては、「大好きなブランドだから、お気に入りのワンピースだから(購入、洋服)」、「めでたいでやはり着物がいいと思う(所有、和服)」などであり、ある属性が重視され、その属性を満足する選択肢が選定されている場合はこの型に分類された。

各生徒が「選定に当たって重視したポイント」欄に記した内容が以上の3種の選定方式のいずれに該当するかを分類し、その頻度を計数した結果を図4に示す。もっとも多い選択方式は「加算型」(48%)であり、約半数の者がこの方式を採用している。次に「辞書編纂型」であり、その割合は34%であった。「加算差型」の割合は7%、「分類不可能」の割合は12%であった。

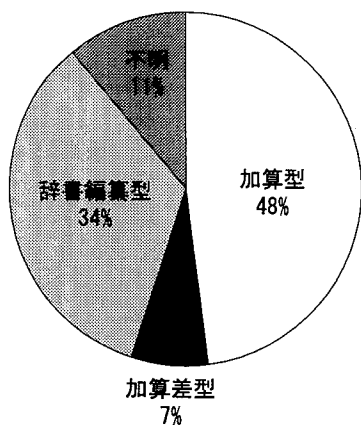


図4 想起された選択肢のなかからある特定の選択肢を選定するとき生徒が用いた方式

ある問題に直面したとき、満足でき、後悔す

ることの少ない意思決定の方式は、一般的にいえば、「加算型」である。「加算型」の意思決定方式は、各選択肢のすべての属性について評価され、その全体的な評価が最良の選択肢が選定されることになるので、多くの観点から検討された結果が反映される。したがって、意思決定能力の育成教材としては、「加算型」の決定方式であるものが望ましいといえよう。

本ワークシートを用いた意思決定では、図4に示すように「加算型」の方式を用いた者の割合がもっとも大きくなっている。服装の選定のような場合、「加算差型」のような厳密な選定が行われることは少ないが、流行中のもの、ブランドものなどのように単一の属性に対する評価が大きく作用することがあって「辞書編纂型」の選定方式が多くなる傾向にある。しかるに、表1のワークシートを用いて服装の選定を行うと、「加算型」の方式によって選定する者が約半数あり、意思決定能力の育成をめざした教材という点から好ましい結果である。

今回のワークシートの実践に当たり、最初に、「各服装プランの費用やメリット、デメリットを比較検討し、着用したい服装を決めてください」と教示しているので、「加算型」の選定方式を用いる者が多くなって当然である。したがって、本実践結果のみでは、この種のワークシートを用いると「加算型」の選定方式を用いて意思決定する者が多くなると結論づけることは無理である。この点に関しては、教示内容、選定方式の測定方法を検討して再度実践を計画している。

なお、本実践の題材「結婚式・披露宴に出席するときの服装」についても、男子生徒にとっては、身近な服装とはいえないところがある。意思決定の学習教材として服装を取り上げる場合、男子、女子生徒ともに彼らの生活に密着した服装を題材とすべきであろう。

IV 要約

意思決定の典型的なモデルを用い、意思決定プロセスを学習するワークシートを作成し、実

践した。このワークシートは、いとこの結婚式・披露宴に出席するときの服装をいくつか想起し、その各服装のメリット、デメリットを検討して、いずれの服装にするかを決定する内容である。

高等学校の女子生徒109名が実践した結果、1名当たり約5種の服装を想起した。想起されたもののなかから選定された服装は、ドレス、スーツなど洋服が63%、和服、制服はそれぞれ17、15%であった。この選定に当たり、どのような方式が用いられたかをワークシートの自由記述の内容から分類し、計数したところ、加算型が約半数を占めた。加算型は堅実な選定方式であり、本ワークシートを用いた意思決定プロセスの学習は望ましい意思決定方式の取得につながることが示唆された。

最後に、本ワークシートの実践にご協力いただきました徳島県鳴門第一高等学校の金磯悠紀子先生、阿部美保先生、角由佳先生、生徒の皆さまに厚くお礼申し上げます。また、教材作成にご協力いただきました古川紅花（現 阿波郡市場中学校教諭）さんに感謝いたします。

引用文献

- 1) 文部省、高等学校学習指導要領解説、実教出版、28 (1994)
- 2) 増田あけみ、田部井恵美子、高等学校における消費者教育の現状 (第2報) 高等学校における実施状況、日本家庭科教育学会誌、39. 3、51-57 (1996)
- 3) 中間美砂子、生活の主体者としての意思決定能力の育成、消費者教育研究、NO.46、3-5 (1996)
- 4) 角間陽子、佐藤文子、家庭科教育における意思決定能力育成にかかわる意識—研究者と家庭科教員との比較において—、日本家庭科教育学会誌、38. 3、21-27 (1995)
- 5) 花城梨枝子、消費者教育論 (今井光映、中原秀樹編)、第11章、消費者教育における意思決定、有斐閣、305 (1994)
- 6) 山本紀久子、消費者教育、第16冊 (日本消費者教育学会編)、消費者教育授業技法の開発—意思決定過程を中心に—、光生館、85 (1996)
- 7) J.G.Bonnice, R.Bannister, Consumer Make Economic Decision, South-Western Pub., 5 (1990)
- 8) J.W.Payne, Task Complexity and Contingent Processing in Decision Making: An Information Search and Protocol Analysis, Organizational Behavior and Human Performance, 16, 366-387 (1976)
- 9) 竹村和久、決定方略が意思決定過程におよぼす効果、心理学研究、59. 2、83-90 (1988)、意思決定の心理、福村出版、185 (1996)

Learning Decision Making Process on Clothing Selection

*Michiyo FUKUI, *Yasuharu FUJIWARA

* College of School Education, Naruto University of Education

Summary: To enhance student decision making skills, a teaching material to learn decision making process was developed and practiced through the selection of clothing for attending their cousin wedding party.

The material was constituted of (1) listing of several alternative clothing for the party ; (2) noting the advantages and disadvantages of each clothing ; (3) selecting a clothing based on personal values and circumstances ; (4) explaining how to select a clothing among alternatives.

The mean number of clothing listed by individual was 5 and the selected ratios of western styles, Japanese styles, and school uniform were 63, 17, and 15% respectively. From the strategies students used in reaching a decision, frequencies of each of three types of decision strategies -- additive(ADD), additive difference(ADF), and lexicographic(LEX) strategies -- were counted. Those who used ADD decision strategy which was most preference among the three strategies was 48%, those with LEX decision strategy which tended to use at selecting clothing 34% subsequently. By working through the project, students were given the opportunity to learn decision making process and were likely to make decision using preferable strategy.

Keywords:decision making skills, clothing selection, decision strategy